

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

名称	第7期宇治市生涯学習審議会 第5回審議会						
日時	平成28年2月10日(水)午後2時~4時15分						
場所	生涯学習センター 2階 一般研修室						
出席者	委員	×	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
		×	奥西 隆三	○	清水 桂子	○	向山 ひろ子
		○	木村 孝	×	杉本 厚夫	○	森川 知史
		○	切明 友子	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
	事務局	○	藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	瀬野 克幸(教育支援センター長)				
		○	富治林 順哉(教育支援課長)				
		○	今庄 真樹(生涯学習課副課長)				
		○	前田 暢(生涯学習課主幹兼生涯スポーツ係長)				
		○	北池 顕子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	粕谷 祐次(生涯学習課生涯学習係主任)				
		○	西田 知世(生涯学習課生涯学習係主事)				
傍聴者	なし						

会議要旨は、下記のとおりである。

- 第4回審議会の会議録について  
訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1. 報告事項

- 平成27年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について  
(事務局)

平成28年1月22日(金)午後、木津川市加茂文化センターにて開催された。研究主題は『「絆のある地域社会を育てる」~互いに助け合い、支え合う地域社会の実現に向けて 社会教育委員の役割とは~』であった。全体会では森川会長のあいさつ、木津川市社会協委員劇団による劇公演「社会教育委員ってなあに？」が上演された。その後は3つの分科会に分かれてラウンドテーブル形式で進行した。

第1分科会は人数の関係上2部屋に分かれ、第1分科会の1には、岩井委員(記録)、小宮山委員(司会)、西山委員、第1分科会の2には、向山委員長職務代理、木村委員が参加された。第2分科会は参加委員なし。第3分科会は森川委員長(助言者)、清水委員が参加された。

(委員)

木津川市社会教育委員の寸劇はなかなか面白かった。結論は「まちを創る」「こころを結ぶ」「人をはぐくむ」という3つのワードに締めくくられた。しかし分科会では、結局社会教育委員が何なのか、結論が出なかった。定年を過ぎた人にいろいろ言ってもいやがられる。我々のやっていることは結局「おせっかい」なのかもしれない。山城ブロックでは、多くが人口減少の傾向があるが、規模の違う多くの市町村があり、状況は様々である。

(委員)

私は初めて分科会の司会をしたので余裕がなかった。各地域での実践報告があり、料理教室や一軒屋を借りてのイベントで、男性をどう引っ張り込むかという話があった。山間部でひとりで頑張っている方がいたが、単独ではできることも限られてくる。他の人に助けてほしいが、ボランティア等はなかなか人が集まってこないという現状がある。それぞれの立場から活発な意見が出た。

(委員)

継続することは大切だ。私自身「宇治市生涯学習人材バンク」に講師登録しているが、八幡市にも人材バンク制度があり、利用率が低いという話があった。登録したところですぐに声がかかるものではなく、自らの活動について宣伝していく必要がある。また、京田辺市の草内という地域では、催しの際に住民の8割ほどが参加するという。地域づくりに関して、森川委員長の話にもあったように、誰でもフランクに話せる環境が必要だと思う。

(委員)

課題提起の時間が長かった。教育委員会への提言について、家庭教育、青少年など多岐に渡っていてどの部署に出すかわからない。提言に取り組むことで輪ができたと言っていた。木津川市の社会教育委員も、劇公演を通して横の絆ができたと話していた。

(委員長)

劇公演に象徴されるように、社会教育は何をすべきかという話題はいまだに出てくる。今後何をしていくべきか、明確にする必要がある。様々な規模の市町村があるが、近畿大会に行くとさらに地域差は大きくなる。その中で同じ議論ができる方向性を示さなければいけない。ラウンドテーブルの雰囲気については、自己紹介等で発言が一周回った頃からようやく柔らかくなって意見も出ていた。

#### ➤ 平成 27 年宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について

(事務局)

いずれも平成 28 年 1 月 27 日(水)に選考委員会が開催された。ジュニア文化賞は個人 7 件・団体 6 件、ジュニア文化奨励賞は個人 2 件・団体 2 件の合計 17 件が受賞、スポーツ賞は各賞合計 33 件が受賞となった。3 月 1 日(火)文化センター開催の宇治市制施行 65 周年記念式典で表彰式が行われる。

また、同式典にて、当審議会から向山委員長職務代理と六嶋委員が感謝状を受賞することとなった。

➤ **宇治市教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（平成 26 年度実施事業）について**

（事務局）

毎年行っている法定の評価であるが、講評部分に関してのみ報告する。教育振興基本計画の各項目に沿っての検証があり、社会教育部門では生涯学習センター事業が「豊富であり、非常に充実している」と評価された。総合的には、計画の遂行には検討・再編等による改善の余地があると出ている。全文は市ホームページで閲覧できる。

➤ **（仮称）宇治川太閤堤跡歴史公園における生涯学習事業について**

（事務局）

平成 28 年 2 月 4 日建設水道常任委員会で報告されたものに基づいて説明する。施設要件に「生涯学習事務室」を「約 20 m<sup>2</sup>」の面積で設置するとあり、「生涯学習関連事業等の事務が行える空間を確保すること」とされている。開館時間については現在の宇治公民館と同じ設定である。

（委員）

宇治市の約 60 の部局全てに、関連分野で意見等を求める機会があったのか。

（事務局）

歴史まちづくり推進課が中心となって、関係する各部署と調整している。全てではないが、市民会館を所管する文化自治振興課の意見は求めている。

（委員）

宇治公民館は選挙時に投票所となっているが、代わりの場所は検討されているか。投票所の位置は投票率に大きく関わる。選挙は最も基本的で重要な市民参加の機会であり、投票率を上げるために、選挙で選ばれた議員からも、しっかり議論してほしい。

（事務局）

以前にもそのような質問は出ていたので、選挙管理委員会事務局で検討されている。

（委員）

ゾーニング分けの真ん中に民有地があるようだが、将来的にここにふさわしくないものがないという保証はあるのか。

（事務局）

現状は茶園であり、所管課の方で対策を検討していると思う。

(委員)

ここには観光バスは入れなかったと理解しているが。

(事務局)

観光バスの駐車場に関しては、担当課は別にある。決定ではないが現在の宇治公民館跡地での利用も視野に入れて検討される。

(委員)

完成までに費用がかかると思うが、使用料はどのくらいになるのか。

(事務局)

施設そのものは有料だが、他の公民館と差異のないようにしたいと考えている。

(委員)

しっかり人員を配置して、社会教育推進のレベルを下げないようにしてほしい。

(委員長)

今後も引き続き注目していきたい。

## 2. 協議事項

### ➤ 今期の研究テーマについて

#### 発表1 NPO 法人の活動について

(発表委員)

特定非営利活動法人「働きたいおんなたちのネットワーク」について発表したい。「働きたい」の前に「自分らしく」を入れたかったが、長すぎるので割愛した。平成 12 年 5 月に設立、拠点が 3 か所あり、理事 4 人、会員 24 名から成る。きっかけは一緒に立ち上げることになった人と、運命的な出会いをし、生き方について話し込んだことからだった。私自身結婚、出産、さらに介護の関係で仕事を辞め、自分の持っている経験や資格を活かせる仕事に就けなくなっていた。私のように個々の事由がありつつも、地域のために、自分らしく働きたいと思っている女性はたくさんいるはずだと思って仲間を募り、週 2 時間から働ける場所づくりを目指して発足した。

活動としては、女性の自立支援、起業支援、元気づくり、相談・サポート、地域連携の 5 つの事業がある。自立支援事業は京都府の「ひとり親家庭支援事業」の補助を受け、学習支援や生活の支援など、相談を受けサポートしたり、子どもの生活を見守ったりしている。また、平成 23 年から 2 年間、宮城県の大島という離島で女性の働く場を作る「おじゃのみ工房」を立ち上げ、現在は一般社団法人として自立している。

相談・サポート事業では、宇治市の委託事業である乳児家庭全戸訪問のほか、地域子育て支援拠点「ひあ にしおぐら」運営では子育ての悩みや相談を受けている。当 NPO 法人

## 第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

は、「宇治市健康づくり・食育推進計画」に基づく「宇治市健康づくり＜うー茶ん＞連絡会」を構成する13団体のひとつであり、元気づくり事業「うー茶んフェスタ」では、「カラダとココロのケアかふえ」を開催した。その他、市の委託を受けて、家族を介護している人のための講座など、市内4か所で「いやし講座」を開催している。地域連携事業としては、平成18年からFMうじで20分の枠をもらい、私もパーソナリティとして月2回出演し、活動について広報している。

(委員)

活動の資金源はどうなっているのか。

(発表委員)

会員からの会費や、委託事業の委託金や補助金による。しかし運営は厳しい状態である。

(委員)

自主事業はどのような活動をされているのか。

(発表委員)

子育て家庭の訪問サポートや、「まるごとわたしサロン」などがあり、有料で実施するものもある。我々としては雇用の創出を目指し、正職員の給料にも反映させている。

(委員)

給与は委託費が原資なのか、活動の蓄えが原資になっているのか。

(発表委員)

NPO法人なので蓄えはできない。週2時間からの労働を可能にしているため、京都府の最低賃金は上回ろうという思いで頑張っている。

(委員)

16年間活動して来られて、雇用の創出につながっている実感はあるのか。

(発表委員)

プチ起業をして独立される方もおり、つながりがあるので相談に乗るなど、連携を取っている。起業をしたい人には、場所を借りる際などに支援している。

(委員)

「乳児家庭全戸訪問事業」は市の委託だとは思いますがどういう形で訪問しているのか。

(発表委員)

全新生児を対象に、市の担当課がリストアップした家庭を訪問している。保健の専門知

識が必要な家庭には、新生児訪問として保健師が行く。

(委員)

主任児童委員は無償で行っている。委託で行っているのか。いやがる家庭はないか。

(発表委員)

委託を受けている。これまで訪問した家庭で訪問を拒まれたことはない。年間 700 件程度。資格は不要だが研修を受けた者が行っている。

(委員)

拠点が 3 か所あると言っていたが、その維持費は大丈夫なのか。

(発表委員)

NPO 法人の事務所と、現在は 2 か所で様々な事業を実施している。

(委員)

宇治市では年間 1,500 人の新生児が生まれている。民生児童委員だけではフォローできない部分もあるので助かっていると思う。

(委員長)

今発表いただいたのは NPO 法人としての活動であったが、その活動を通して見えてくるものもあると思う。今後もその方面からの様々な意見をいただきたい。

## 発表 2 図書館サークル、図書館友の会について

(発表委員)

現在、私は 2 つの団体に所属している。「おはなしたまてばこ」は 27 年の活動歴がある。単発の講座で出会い、自分の求める活動であったため加わった。図書館 3 館、学校 8 ~ 10 校、公民館などで活動している。近年は年間活動数 650 回とあるが会員がフル稼働している。月に 2 回は定例の勉強会を開催。現在は「うじ市民活動サポート事業」を受けている。宇治市生涯学習人材バンクの講師登録や社会福祉協議会のボランティア登録をしている。私は働きながら入ったが、退職後に本格的に活動をするようになった。

「図書館友の会」は平成 20 年から活動開始。退職後に私は加わった。最近京田辺市の図書館に行ってきたが、他の図書館を見ると、「こんなことができるのか」という発見がある。みんなが使いやすい図書館になってほしい。年に 1 回は学習会を開き、関係団体との懇談の機会も設けている。市民にもっと図書館を使ってもらいたい。宇治市は宇治川の東西で交通が不十分なところがある。大きな効果は得られていないが、少しでも一緒に勉強できたらと思って頑張っている。

(委員)

市内の小学校の中には朝5~10分程度、本を読む時間を割いたりしていると聞く。いいことだと思うが、そういう活動はしていないのか。

(発表委員)

本に関係する団体はたくさんあり、図書館ボランティアがいる学校もある。我々には各校の状況は詳しく知らない。図書館、保育園では30分、学校では45分の一時限を使っている。回数は1年生で年6回、少なくとも3回行っているようだ。

(委員)

最近は二宮金次郎の像が座っているそうだ。本を読みながら歩くと事故を起こすからだ。地域には本当に本を読みながら下校する子もいると聞いた。時代とともに変わってくる部分もあるが、本を読む姿勢は変わらず良いことだと思うので続けてもらいたい。ソクラテスが文字を読めなかったという話は前回聞いて面白かった。

(委員長)

彼は文字という新しいメディアに対する反発があった。

(委員)

我々もインターネットに反発していると時代に取り残されてしまう。

(委員)

さきほど小学校に行かれたと話していたが、具体的にどのようなことをしているのか。読み聞かせではないと思うが。

(発表委員)

英米で始まったストーリーテリングという手法を採っている。物語はもともと耳で聞いて口承で伝えられるもの。日本の昔話も語りで伝えられてきた。話す物語の文章を全て覚えこんで、何も持たずに語り聞かせる。最近では高学年の対象が減ってきた。高学年向けのお話も聞かせたいので残念だ。年度が変わったタイミングで途切れることもある。

(委員)

活動を通して、子ども達にどうなってほしいと思っておられるか。

(発表委員)

メンバーそれぞれ思いはあるだろうが、私は読書することや図書館に行くことにつながってほしい。市はもっと図書館や司書の数を増やしてほしい。最近では若い人に関する痛ましい事件が多いが、耳で聞き、話の主人公に自分を同化させるという体験は、相手の立場に立つことであり、子どもの成長に大事なものだと思う。こういう経験を積み重ねること

が非常に人生を豊かにする。活動を通して、子ども達はこちらが覚えていなくても、声をかけてくれることがあるので、そういう時はやはり嬉しい。

### 発表3 市民まなびの集い「宇治まなびんぐ」について

(発表委員)

開催形式として、市民参画を進めるため、公募の実行委員と生涯学習センターで協議をし、市民主導の形で開催している。生涯学習のきっかけ作りの場として継続している。今年度23回目となる「宇治まなびんぐ2016」は、平成28年2月6日(土)・7日(日)に生涯学習センターで開催された。41団体43ブースを開設。5団体が初出展。6日は500名、7日は350名が来場された。

今年度の流れは次の通り。9月1日号市政だよりにて実行委員募集。10月上旬に第1回実行委員会を開催し、正副委員長の選出、各チラシ・開催案内などの印刷物担当者の決定。11月1日号市政だよりにて出展者募集。11月下旬、事務局2名と正副委員長3名で出展者調整会議。12月上旬、第2回実行委員会。1月15日号市政だよりにて当日ボランティア募集。1月中旬に出展者、スタッフが集まる全体会開催。2月1日号市政だよりで開催の案内掲載。直前には実行委員によるFMうじへの出演もある。終了後の2月中旬には反省会を開催し、活動レポート作成にかかる。3月下旬にこの活動レポートが完成し、配布する。

私に関わることになったきっかけは、3年前に生涯学習センターの市民活動サポート事業に採択されたことだった。そこで生涯学習センターの職員から、まなびんぐ実行委員へのお誘いを受けた。以前から存在は知っていたが、実際に行ったことはなかった。その状態で実行委員になり、全くイメージがつかめないまま、不安な思いで当日を迎えた。南京玉すだれやジャグリング、フラダンスなど、たくさんのブースで初めての体験をしたことで、すごく楽しい思いをした。実行委員への誘いがなければ味わうことがなかったかもしれないと思い、以前の私のように、知ってはいるけど体験したことのない人たちに経験してもらいたいと思った。また楽しみにしてくれている人たちがいるので、ここにつながる人が少しでも増えたらと思い、実行委員は今年で3回目だが、今回はスムーズに進んだように思う。混雑して並んでもらわないといけないということもなく、かといって静かでもなかった。小学生がもう少し多かったら賑やかだったかなとは思っている。友達どうして来てもらい、またその子らが大きくなって子どもを連れてきてくれたら嬉しい。時代に合わせて新しい要素も入れながら、続いていければと思う。

(委員)

私が出展委員をしていた時は、メンバーが固定化しており、会議はスムーズだったがこれでいいのかなと思っていた。この発表を聞いて、まなびんぐに行ったことがない人が実行委員になり、馴染んで、楽しんでくれてとても嬉しく思う。

(委員)

「響け うたごえの会」の活動もしておられるが、これもきっかけのひとつなのかな。

(発表委員)

音楽の学校を出ているので、音楽活動にはずっと携わっている。演奏活動や、ピアノ教室、音楽療法で老人ホームなどの施設を回ってきたが、ずっと住み続けている宇治で、地域に関われるようなことをしてみたいという思いがあった。「響け うたごえの会」は当日までどれくらい人が来るかわからないが、この会を楽しみにしてくれている人がある。来た人達が、「楽しかった」「ここでまた会おうね」という思いを持ってつながっていくのが嬉しかった。一回の大きなイベントよりも、次につながるような、「点」から「線」の活動をしたかった。

(委員長)

まなびんぐはずっと続いているイベントだが、社会還元の表出の場だと思う。

(委員)

開催日に関しては、毎年第1土・日という固定になっているのか。この日限定で行っているのならば、寒い時期なのでお年寄りには来れないとか、受験生は大事な時期だからとか、毎年来れない人が出てくる。日程を変えるという議論は出ないのか。

(事務局)

出展者の中にも、この日を毎年押さえている人がいる。今回は大学生が試験中にも関わらず来てくれた。がらりと日を変える難しさもある。

(委員)

私もフォークソング活動をしているが、新しい参加者を呼び込むためには日を変えるという考えがあってもいいのではないかと思う。

(委員)

私が実行委員をしていた時は、実行委員会の時間帯が問題だった。平日の昼間開催なので、学生や働いている人は実行委員になれない。時間を変えることで、また別の来れない人が出てくるとは思うが。

(事務局)

次回の発表者について、社会教育施設としてのコミュニティセンター、公民館、生涯学習センターを題材にして、それぞれ使用している委員からの発表をいただきたい。内容、資料に関しては相談しながら進めていきたいと思う。

### 3. その他

➤ 宇治市教育の重点「社会教育の重点」について

(事務局)

内容を確認の上、ご意見等があれば連絡を頂きたい。

➤ **スポーツ推進計画の進捗状況について**

(事務局)

例年この時期に今年度の実施事業を報告しているが、スポーツ推進計画に基づいて報告資料を作成し、年度が終了後してから報告したい。

➤ **最後に**

(委員長職務代理)

今回は3名の発表があり、それぞれの場所で頑張っている姿が見えて良かった。次回も3名の発表があり、楽しみにしている。もう少し課題があっても良いと思う。

<次回の会議について>

平成28年4月15日(金)午後2時00分から 生涯学習センターにて